

担い手通信

JAバンクは地域の担い手を応援します

今月の話題

低価格トラクター

3年で1500台超計画

全農が供給スタート

農家の声を基に必要な機能を絞り込み、低価格を実現したJA全農の大型トラクターの出荷が10月5日、始まりました。標準的な型式より2、3割安く、大排気量のエンジンや無給油で1日作業できるといった仕様も好評です。開発前の取り扱い目標は3年間で1000台としていましたが、全国の都府県本部などからは同1500台を超える取り扱い計画が積み上がっています。



10月5日から出荷が始まった全農の低価格トラクター（岡山市で「ヤンマー」提供）

トラクターは、今月から岡山市のヤンマー農機製造岡山工場で本格生産を始めました。担い手向けの60馬力で、メーカー希望小売価格は標準装備の同クラス機に比べて60万〜90万円安い534万円（税別）です。共同購入による規模メリットでさらに引き下げ、

地区ごとに異なりますが、生産者の購入価格は同2、3割安くなります。JAを通じて注文し、納品までには約3カ月かかります。

全農は昨年、農家所得増大に向けた事業改革の一環として、農機メーカー4社に開発を要請しました。今年6月、指定した仕様で入札し最も低価格だった型式に決めました。1万人超の生産者への調査を基に①自動水平制御②自動耕深制御③倍速ターン——などの機能に絞り込む一方、同クラスでは大型の総排気量3・3トルクのエンジンや、おむね1日給油せずに作業できる容量56トルクの燃料タ

ンクを積んでいます。

今夏に行った農家向けの展示会では、価格と併せてエンジンや燃料タンクなど仕様への評価が高く、契約でも「好調なスタート」全農生産資材部）となりました。

今が旬
この言葉

農林水産祭
天皇杯

農水省と日本農林漁業振興会は10月18日、優れた活動や業績を挙げた農林水産経営者に贈る2018年度（第57回）農林水産祭天皇杯の受賞者を発表しました。林産部門では紀北町の速水亨・紫乃さんが選ばれました。環境に配慮し、森林を適切に管理して生産された木材に与えられる国際基準、FSC認証を2000年に日本で初めて取得。下草刈りの必要回数も見直して省力化するなど、持続可能な林業へ向けて生物の多様性に配慮した経営の実践が評価されました。

このコーナーは、三重県農業研究所の「研究成果情報」に基づき制作し、県内に広く研究成果を紹介しています。

(日本農業新聞より)

■ 三重全域

東京五輪へ県産PR 三重県、全農みえ 米、和牛振る舞う

三重県やJA全農みえなどは10月9日、2020年東京五輪・パラリンピック大会に向けた県産農林水産物の販促イベントを東京都内で開いた。飲食事業者や大会関係者らに、県独自のブランド米「結びの神」や和牛「松阪牛」のローストビーフなどを振る舞った。県を挙げて農業生産工程管理(GAP)認証取得を進めている状況も報告し、県産品を売り込んだ。イベントには、同県出身の女子レスリング・吉田沙保里選手と車いすテニスの齋田悟司選手も駆け付け、「大会で県産食材をPRしてほしい」とエールを送った。

(2018/10/10 流通経済)

■ JA三重中央

マコモタケ加工 評判

JA三重中央は10月6日、津市美杉町太郎生の「まこも収穫祭」で「まこもカレー」の試作品を販売した。地区では耕作放棄地対策としてマコモタケが栽培されている。生産活性化のため、地元有志の生産者グループ「八十六石まこもの集い」とJAのカット野菜工場「ベジマルファクトリー」が協力し、試作品を完成させた。まこもカレーは美杉町産マコモタケを使用。具材には粗びきミンチを合わせた。

(2018/10/17 ワイド2東海)

■ JAいがふるさと

子どもの自炊 習慣に 講師は三重大生

JAいがふるさとと三重大学教育学部食品学研究室が協力し、9月中旬と下旬に料理教室を名張市の「武道交流館いきいき」と伊賀市の「とれたて市ひざっこ」で開いた。主に4～7歳の子どもの持つ家族計27組が参加。同研究室の大学生が講師となり、子どもが成長してから自炊の習慣につながるように調理を指導した。

(2018/10/2 ワイド2東海)

ワーク・ライフ・バランスを考慮した柔軟な労務管理が大切

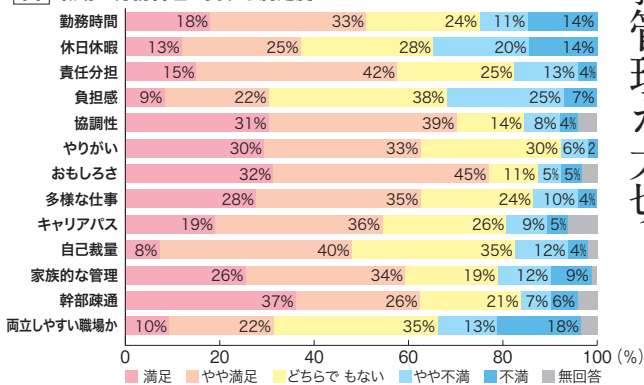
仕事と家事・育児の両立の鍵は「勤務時間」と「家族的な管理」

一 二 三重県農業研究所は、県内の農業法人従業員のおよそ3割が仕事と家事・育児の両立に悩みを抱えている実態を明らかにしました。勤務時間に満足感がある、もしくは家族の事情に柔軟な対応がある場合には、従業員は仕事と両立しやすいと感じています。ことから、従業員一人一人の事情に応じた適切な労務管理がワーク・ライフ・バランスの鍵

であることが分かります。県内の農業法人31社104人の正社員を対象に調査を実施しました。「家事・育児する人にとって働きやすいと感じる意識」について取り上げ、そうした意識と農業法人の労務管理に対する満足度がどのように影響しているのかを調査。家事・育児と両立しやすい職場かどうかについての回答では、「ややそ

う思わない」13%、「そう思わない」18%とおよそ3割の従業員が仕事と両立しにくいと回答しました。県内では、39歳以下の新規就農者に占める雇用就農者の割合は67割と、全国のは34割と比較しても割合が高いのが特徴です。そのため、雇用就農者を含め、新規就農者が安心して働ける環境づくりを進めていくことが必要です。

図 職場の労務管理に関する満足度



お問い合わせ先 三重県農業研究所 地域連携研究課 ☎ 0598-42-6356

明日の農業を担うみなさまへ
JAバンクは地域農業を応援します!

- ◆トラクターなどの農業用機械の購入資金
- ◆栽培用ハウス・畜舎など農業用施設の建設資金
- ◆その他農業経営に必要な資金

農業を営むすべての方に

農業経営資金

対象期間/平成30年4月2日～平成31年3月29日

農業者の皆様のご負担金利を5年間軽減いたします。

JAバンク利子補給制度(3年)と
当JA金利引き下げ(2年)措置の対象となります。
利子補給および金利引き下げの適用イメージ～変動金利型の場合～

(お借入金利)
変動金利 年1%

-

(JAバンク利子補給・金利引き下げ)
年0.8%

=

実質 年0.2%

5年間

詳しくは、お近くのJAバンク窓口までお問い合わせください。<http://www.jamie.or.jp/jabanking/agri/>
平成30年10月現在

※JAバンク利子補給・当JA金利引き下げ後のご負担金利は0.2%を下回らないように調整されます。
※イメージは実際とは異なる場合がございます。
詳しくはお近くのJAバンクまでお問い合わせください。
※JAバンク保証料助成により、実質保証料が0円となります。

0円

実質保証料